



急性 B 型大動脈解離へのステントグラフト内挿術の経年的変化

2013 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までに急性 B 型大動脈解離と診断されて治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「急性 B 型大動脈解離へのステントグラフト内挿術の経年的変化」という研究を倫理委員会の承認並びに院長の許可のもと、倫理指針及び法令を遵守して行います。この研究は、2013 年 1 月 1 日より 2021 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院にて、急性 B 型大動脈解離のために治療を受けられた患者さんの治療法とその急性期予後を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただき、この掲示によるお知らせをもって実施いたします。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：急性 B 型大動脈解離へのステントグラフト内挿術の経年的変化

研究期間：研究実施許可日 ~ 2027 年 12 月 31 日

研究責任者：日本医科大学付属病院 循環器内科 病院講師 坪 宏一

(2) 研究の意義、目的について

急性 B 型大動脈解離の治療には、1 薬だけで治療する方法、2 ステントグラフトを使って治療する方法、3 手術によって治療する方法の 3 つがあり、急性 B 型解離に大動脈破裂や臓器への血流障害があった場合にはステントグラフト治療が第一選択となっています。このステントグラフト治療が東京都内でどのような頻度で行われているのかということはよくわかっていません。そこで、この研究は「急性 B 型解離に対して急性期のステントグラフトの使用頻度が近年どのように推移し、またその成績がどのように変化しているのかを明らかにすること」を目的とします。これが明らかになると、現在のステントグラフト治療が正しく行われているか評価ができ、今後どうすれば患者さんのステントグラフト治療が適切に行われるかが、明らかになると考えます。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2013 年 1 月 1 日より 2021 年 12 月 31 日までに日本医科大学付属病院にて、急性 B 型解離と診断されて治療を受けられた患者さんの合併症と治療方針を解析し、治療成績についての検討を行います。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、性別、来院時血圧値、血液所見（ヘモグロビン、脂質異常関連データ、糖尿病関連データ）高血圧既往、喫煙歴、CT 所見（偽腔の状態や破裂の有無）、治療法（薬物治療のみ、ステントグラフト治療、手術）、予後（死亡の有無と原因）

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用いたしません。また、研究発表時にも個人情報は使用いたしません。その他、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省・経済産業省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表いたします。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学付属病院 循環器内科 病院講師 坪 宏一

〒113-8603 東京都文京区千駄木 1-1-5

電話番号：03-3822-2131（代表） 内線：24792

メールアドレス：koichi-a@nms.ac.jp